

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目： 若手研究（B）
 研究期間： 2008～2009
 課題番号： 20791258
 研究課題名（和文） 加齢黄斑変性患者の精神健康状態把握・改善の探索的研究
 研究課題名（英文） Investigation and improvement of mental status in patients with age-related macular degeneration.
 研究代表者
 野田 佳宏 （NODA YOSHIHIRO）
 九州大学・大学院医学研究院・助教
 研究者番号：20404022

研究成果の概要（和文）：

病的近視は加齢黄斑変性と同様に脈絡膜新生血管の発生や広範囲の網脈絡膜萎縮が観察され、中心視野が犯される。生活に大きな影響を与える両眼性の患者をみることも少なくな。近視には眼軸長の影響が大きいことが知られているがその分布や異常値の定義などは行われていないため眼軸長の基礎データや病的な眼底との関連について調査・報告を行った。

研究成果の概要（英文）：

Long optic axis was proverbially associated with high myopia, which impairs a comfortable vision life for many people without glasses, contact lenses and so on. Some people affect retinal detachment, retinoschises with macular hole, macular degeneration and pathologic retinal atrophy because of high myopia. I clarified the prevalence of pathologic myopia and the association with axial length in a general adult Japanese population.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2008年度	1700000	510000	2210000
2009年度	1000000	300000	1300000
年度			
年度			
年度			
総 計	2700000	810000	3510000

研究分野：眼科学分野

科研費の分科・細目：外科系臨床医学・眼科学

キーワード： 眼科学 加齢黄斑変性 精神健康状態 社会政府案 認知機能 病的近視
 眼軸長 網脈絡膜萎縮

1. 研究開始当初の背景

加齢黄斑変性(AMD)は米国では法的盲の原因の第1位となっており、我が国でも生活の欧米化と高齢化に伴って患者数増加が問題となっている。我が国の視力障害については厚生労働省科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業「網膜脈絡膜・視神経萎縮に関する研究(主任研究者:石橋達朗)」の平成17年度の報告にもあるように黄斑変性が主たる原因の一つとなっている。また我が国における代表的疫学研究である久山町研究において加齢黄斑変性の有病率は50歳以上の約0.9%、初期のもの(前駆症状)は約12.7%であることが報告されている。同研究では5年間の累積発症率についても欧米並みの0.8%であると報告しており、今後患者数の増加が予想されている。

AMDの前駆症状として眼底にドレーゼンがみられる。ドレーゼンには補体、活性酸素やアミロイド β を多く含んでいることが知られている。アミロイド β はアルツハイマー病の原因として広く知られているが、AMDとアルツハイマー病を含めた認知症・認知機能についての関連についてはほとんど報告がない。

九州大学では1985年にAMDの専門外来を開設し、現在年間1000人以上のAMD患者が専門外来を受診している。AMD臨床の最前線に立つと、患者からの多くの訴えを耳にする。その多くは自分の症状への周囲の不理解と今後の視機能、生活に対する不安である。AMDでは歩行機能などに大きな影響を及ぼさないためか、外見は一般の健常者と区別できないため、周囲から視機能障害に対する配慮をするのが難しい。症状が進むと不可逆的な視機能の障害となり「治らない」ものとして一般眼科開業医では相当の精神的フォローは難しい。近年光線力学的療法が保険適用され、抗血管新生薬の治験が行われているが患者からの過度な期待に困惑することも多い。そして患者や周囲の人間のAMDという疾患に対する理解の不足とともに患者の不安が増大する場合が少なくない。

2. 研究の目的

加齢黄斑変性(AMD)は現在、我が国の後天性失明・視力障害の原因の一角を占めている。米国では法的盲の原因の第1位となっており、我が国でも生活の欧米化と高齢化に伴って今後患者数の増加が予想されているが、発

症原因やその病態把握は未だ明らかでなく、根治的な治療法も確立されていない。そのため視機能が大きく障害されたAMD患者は既に多数存在し、今後も急速に増加することが予想される。またAMDにより視機能が障害されると文字の読み書き、他人の顔の認識、自動車の運転など日常生活が大きく障害される。AMDは急激に視力が低下するため、これまで視機能・日常生活に問題なかった方に大きな生活の変化を余儀なくする。しかしこれまでAMDに対して心理的面で影響を調査した研究は少なく、どれほどの患者がどの程度の社会性不安障害に陥っているか、また認知機能にどの程度影響を与えているかは明かでない。

本研究ではAMDにおける精神健康状態、社会性不安障害の頻度・程度の調査、認知機能の調査し、最終的にはAMD患者専用の不安調査票を作成し日常診療において患者・医療従事者双方の円満・円滑な関係を助けることを目的とする。

3. 研究の方法

AMD患者の精神健康状態を把握するために標準化評定尺度であるCES-D(Center for Epidemiologic Studies Depression Scale)、認知機能の尺度としてHDS-R(改訂長谷川式簡易知能機能検査スケール)およびMMSE(Mini-Mental State Examination)を行う。また独自に作成したAMD用の質問の結果と照合する。

調査はブロック単位で行い、1ブロックは患者100人程度とする。1ブロックが終了した時点毎にAMD専用の質問については改訂を考慮する。

AMDの視機能と精神健康状態・認知機能に相関があるか、またAMD専用の質問が有効か、それぞれについて探索的に検討し、最終的に1000人程度の調査を行い、AMD専用の簡易的な精神健康状態質問項目を確定する。

患者背景にはこれまでの診療データを用いる。研究参加に当たっては患者より書面にて同意を得ることを前提とする。

4. 研究成果

AMD 患者における精神状態に関しては多施設臨床試験において NEI VFQ-25、EQ-5D という海外では標準的な眼科心理アンケート・健康アンケートの日本語版の調査が行われていることが判明し、その規模から個人で行う本研究の意義は相対的に小さくなったため病的近視の研究に切り替えて研究を行った。病的近視は AMD と同様に脈絡膜新生血管の発生や広範囲の網脈絡膜萎縮が観察され、中心視野が犯される。生活に大きな影響を与える両眼性の患者をみることも少なくない。近視には眼軸長の影響が大きいことが知られているがその分布や異常値の定義などは行われていないため眼軸長の基礎データや病的な眼底との関連について調査・報告を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

Hasegawa Y, Noda Y et al. Equivalent tamponade by room air as compared with SF(6) after macular hole surgery. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2009 Nov;247(11):1455-1459. Epub 2009 Jun 21.

Arimura N, Noda Y et al. Vitreous mediators after intravitreal bevacizumab or triamcinolone acetonide in eyes with proliferative diabetic retinopathy. Ophthalmology. 2009 May;116(5):921-926.

Yamakiri K, Noda Y et al. One-year results of a multicenter controlled clinical trial of triamcinolone in pars plana vitrectomy. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2008 Jul;246(7):959-966. Epub 2008 Apr 23.

下長野由佳, 野田佳宏 他 糖尿病黄斑症に対する硝子体手術終了時にトリアムシノロンアセトニドを硝子体内注入した治療の検討. 日本糖尿病眼学会誌 12 巻: 72-72, 2008 年

〔学会発表〕(計 2 件)

野田佳宏 他 一般住民における眼軸長の性別・年代別分布 第 62 回 臨床眼科学会総会 2008 年 10 月 23 日 東京国際フォーラム (東京都)

野田佳宏 他 一般住民における病的近視の有病率と眼軸長分布 第 113 回 日本眼科学会総会 2009 年 4 月 18 日 東京国際フォーラム (東京都)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等 (該当なし)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野田 佳宏 (NODA YOSHIHIRO)
九州大学・大学院医学研究院・助教
研究者番号：20404022

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし